

評価結果公表票

作成日 平成20年11月11日

【評価実施概要】

事業所番号	0292500022
法人名	有限会社楓プロジェクト
事業所名	グループホームかえでの森
所在地	上北郡六戸町大字犬落瀬字柴山55-129 (電話) 0176-70-1818
評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央三丁目20-30 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成20年9月18日

【情報提供票より】(平成20年8月10日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成18年9月9日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤	14人, 非常勤 0人, 常勤換算 7人

(2)建物概要

建物構造	木造平屋	造り
	1階建ての	1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	23,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費5,000円ほか 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(8月10日現在)

利用者人数	17 名	男性	3 名	女性	14 名
要介護1	2 名	要介護2	9 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低	75 歳	最高	98 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	沼田医院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「個々の生活が保障され、心身共にその人らしく最後までふつうの暮らしが出来るよう援助する。又、認知症を理解して頂き、地域に密着した一人の人間としての交流の場を提供していく」というホーム独自の理念を掲げている。また、理念を事務室等に掲示して共有化を図り、全職員がその実現に向けて日々取り組んでいる。

農業に携わっていた利用者が多いため、その特技を活かしてホーム隣の畑で野菜等を作って収穫の喜びを味わったり、毎日新鮮な材料を仕入れて手作りの食事を提供するなど、食事を楽しめるよう支援している。

これまでの受療状況を把握し、利用者や家族が希望する医療機関での受診を支援している。また、協力医療機関を確保したり、看護師の資格を持った職員を配置するなど、体調急変時等にいつでも対応できる体制を整えている。

共用空間には小上がりや観葉植物等を設置するなど、家庭的な雰囲気を作るよう取り組んでいる。また、居室にはこたつやテレビ、たんす等の馴染みの物が持ち込まれており、居心地のよい空間となっている。

【特に改善が求められる点】

職員は評価のねらい等を理解しているので、日々のケアの振り返りや新たな気づきの発見につなげるためにも、自己評価には全職員で取り組んではどうか。

虐待や身体拘束のないケアを提供しているが、虐待を発見した場合の対応や、やむを得ず拘束を行わなければならない場合の体制を整えることに期待したい。

前年度の研修開催状況を参考にするなど、内部・外部研修の年間研修計画を作成することに期待したい。また、外部研修受講後は報告書を基に伝達研修を行うなど、内容を詳細に全職員に周知し、更なるスキルアップにつなげていくことに期待したい。

消防署の協力を得て避難訓練等を行っているが、災害時に備えて数日分の食料や飲料水、寒さをしのげる物品等を用意してはどうか。

保健所や医療機関の協力を得るなど、栄養士等の専門家から定期的な献立に関するアドバイスを受けられる体制を整備することに期待したい。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価の結果について話し合いを行っており、玄関に意見箱を設置して家族の要望を聞く機会を増やすなど、今後のケアサービスの向上につなげている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全職員が評価のねらいや活用方法を理解している。自己評価は、運営者や管理者、一部の職員のみで作成しているため、日常業務を振り返る機会とするためにも全職員で取り組んではどうか。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2ヶ月に1回開催しており、行政職員や家族、民生委員等が参画している。会議では日々の取組みや自己・外部評価の結果等を報告し、改善点に関する意見や要望などを出してもらっており、出された意見は今後の運営につなげている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>ホーム便りや毎月の利用料支払い時等に暮らしぶりや健康状態等を家族に報告し、情報交換を行っている。また、ホーム内外の苦情受付窓口を文書に明示したり、玄関に意見箱を設置するなど、家族が意見等を話しやすい環境を作っており、苦情や要望が出された時は職員間で話し合い、今後のケアにつなげる仕組みとなっている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>散歩時に住民と挨拶を交わしたり、住民や民生委員に運営推進会議のメンバーになってもらうなど、地域にホームを理解してもらい、交流を深めるよう努めている。また、行事開催時には踊りやハーモニカ演奏などのボランティアを受け入れるなど、地域に開かれたホーム作りを行っている。外部の人を受け入れる際には利用者のプライバシーに十分配慮している。</p>

【各領域の取組状況】

領域	取組み状況
I 理念に基づく運営	<p>利用者を「地域に密着した一人の人間」として捉えており、“最後までふつうの暮らしが出来るよう援助する”という主旨の理念を作成している。職員は理念の実現のため、一人ひとりに寄り添った支援を行うよう心がけている。</p> <p>ユニット間の人事異動は必要最小限に留めている。異動を行う場合は職員間で十分な引継ぎを行うとともに、利用者に説明している。また、玄関に職員の顔写真を掲示するなどの取組みも行っている。</p>
II 安心と信頼に向けた関係作りと支援	<p>契約前に見学を促すなど、利用者や家族との話し合いを十分に行い、安心してサービスを開始できるよう支援している。</p> <p>職員は、声かけ等により利用者とのコミュニケーションを深め、一人ひとりの喜怒哀楽を理解するよう努めている。また、食事の支度や後片付け、畑仕事を共に行うなど、利用者や職員が支え合う関係を築いている。</p>
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<p>介護計画作成時には利用者や家族の意向、職員の気づき等を取り入れており、個別具体的な内容となっている。また、3ヶ月ごとの見直しや、利用者の状態や家族の要望等に変化があった時の随時の見直しを行っている。</p> <p>通院時の同行、買い物や美容院への送迎等、利用者や家族の要望に柔軟に対応している。また、受診状況は電話や面会時に家族に伝え、共有している。</p>
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<p>利用者が思い思いにゆったりと過ごせるよう、散歩や作業を強要することなく、その日の天気や気分に応じた支援を心がけている。</p> <p>職員は利用者一人ひとりの生活歴や力量等を把握しており、毎月の季節の飾りつけや食事の準備・片付け、洗濯物干し、除草、園芸など、個々に応じた役割や楽しみごとを促している。</p> <p>日中は居室や玄関を施錠しておらず、外出傾向を察知できるよう見守りを行っている。察知した時は職員が付き添うなどの支援を行っている。また、無断外出時に備えて、近隣住民との連携を図っている。</p>

評 価 報 告 書

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者及び職員は地域密着型サービスの役割を理解しており、地域との関わりを盛り込んだ理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を事務室や職員用トイレに掲示し、職員間での共有化を図っている。管理者や職員は理念の意味を十分に理解しており、理念を日々のケアに反映させるよう努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	散歩時に住民と挨拶を交わしたり、住民や民生委員に運営推進会議のメンバーになってもらうなど、地域にホームを理解してもらい、交流を深めるよう努めている。また、行事開催時には踊りやハーモニカ演奏などのボランティアを受け入れるなど、地域に開かれたホーム作りを行っている。外部の人を受け入れる際には利用者のプライバシーに十分配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が評価のねらいや活用方法を理解しており、外部評価の結果について話し合いを行い、今後のケアサービス向上につなげている。しかし、自己評価は運営者、管理者、一部の職員のみで作成しており、全職員で取り組むまでには至っていない。	○	日々のケアの振り返りや新たな気づきの発見につなげるためにも、自己評価には全職員で取り組むことに期待したい。
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は行政や家族、民生委員等で構成されており、2ヶ月に1回開催している。会議では日々の取り組みや外部評価結果等について報告し、改善点や要望などについて意見から意見を出してもらっている。委員から出された意見は今後の運営につなげている。		
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームのパンフレットを送付するほか、運営推進会議に行政担当課職員に参加してもらうなど、ホームの現状を定期的に伝え、連携を図っている。		
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会が設けられていない。	○	外部研修に職員を派遣したり、パンフレットを取り寄せて内部研修を行うなど、全職員が地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について理解を深め、利用を希望する方などに情報提供等を行える体制を整えることに期待したい。
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	配慮を欠いた言葉遣い等については管理者が注意を促すなど、虐待のないケアに努めている。しかし、職員が虐待について理解を深める機会が設けられていない。また、虐待を発見した場合の対応や報告の流れ等に関する取り決めが作成されていない。	○	内部・外部研修を通して全職員が虐待について理解を深めるとともに、発見した際の対応や報告の流れについて取り決めを作成し、全職員に周知することに期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、重要事項説明書に基づいて理念等を説明し、利用者や家族の不安に対応している。また、契約改訂時や退居時にも説明して同意を得ており、退居時には退居先に関する情報提供等を行っている。		
10	12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便りや毎月の利用料支払い時に、日々の暮らしぶりや健康状態等を家族に報告している。また、異動があった時はその都度報告するとともに、玄関に顔写真を掲示している。金銭管理状況は、領収書を添えて定期的に家族に報告している。		
11	13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時を利用して、家族に意見や要望を出してもらっている。また、ホーム内外の苦情受付窓口を文書に明示したり、玄関に意見箱を設置するなどの取り組みも行っており、家族から意見が出された時は職員間で話し合い、今度のケアにつなげる仕組みとなっている。		
12	16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は、異動による利用者への影響について理解しており、異動は必要最小限に抑えている。異動時には職員間で十分な引継ぎを行うとともに、利用者に説明している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、職員の資質向上の必要性を認識しており、一人1回は研修に参加する機会を確保している。受講後は報告書を作成し、全職員が閲覧できる体制となっている。しかし、年間研修計画を作成したり、伝達研修を行うなどの外部研修内容を詳細に全職員に伝える取り組みは行われていない。	○	前年度の研修開催状況を参考に、内部・外部研修の年間計画を作成してはどうか。また、外部研修受講後は報告書を基に伝達講習を行うなど、内容を詳細に全職員に周知し、更なるスキルアップにつなげることに期待したい。
14	18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は、同業者との交流の必要性を認識している。地域に同業者の協議会等がないため、交流や連携を図ることは難しいが、外部研修参加時を利用し、同業者との情報交換や交流の機会を設けている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学を促すなど、利用者や家族との話し合いを十分にを行い、安心してサービスを開始できるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、日々の声かけ等により利用者とのコミュニケーションを深め、一人ひとりの喜怒哀楽を理解するよう努めている。また、食事の支度や後片付け、畑仕事等を行うなど、利用者職員が支え合う関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者や家族からの聞き取りを行い、一人ひとりの意向や思いを把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成時には、利用者や家族の意向、職員の気づきを取り入れ、全職員で話し合っ作成しており、個別具体的な内容となっている。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の実施期間を明示しており、3ヶ月ごとに見直しを行っている。また、利用者の状態や家族の希望等に変化がないか常に確認しており、変化が生じた時はその都度の見直しを行っている。見直し時には再アセスメントを実施している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院時の同行、買い物や美容院への送迎等、利用者や家族の要望に柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでの受療状況を把握しており、利用者や家族が希望する医療機関での受診を支援している。また、協力医療機関を確保したり、看護師の資格を持った職員を配置するなど、急変時等にいつでも対応できる体制を整えている。受診結果は電話や面会時に家族に伝え、共有している。		
22	44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期のケアには対応していないが、日々の健康管理や急変時の対応については利用者や家族、医療機関との意思統一を図っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者がミーティングで指導するなど、一人ひとりを尊重したケアを提供するよう心がけている。また、排泄時や失禁時、食べこぼし等には、他に利用者に気付かれないうさりげなくサポートしている。職員は個人情報保護法について理解しており、個人情報は他の利用者の目につかない場所に保管するなどの対応を行っている。		
24	49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の言動を急かすことなく、個々のペースでゆったりと過ごせるよう支援している。また、その日の心身の状態や希望に柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立には利用者の希望や好み、畑で収穫した野菜などを取り入れている。また、食材の買い物に利用者と一緒に出かけたり、準備や後片付けを手伝ってもらうなど、楽しみながら食事ができるよう工夫している。		
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	時間帯等、利用者の希望に合わせた支援を行っている。また、入浴時は一人ひとりの習慣や羞恥心等に配慮している。入浴を拒否する利用者には時間をかけて対応したり、清拭や足浴を促すなど、無理強いしない対応を職員間で検討している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴や力量等に応じて、毎月の季節の飾りつけや食事の準備・後片付け、洗濯物干し、除草、園芸などの役割や楽しみごとを促している。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム周辺を散歩したり、利用者の希望を聞きながら買い物や美容院に出かけるなど、積極的に外出の機会を作っている。外出時には利用者の身体状況に配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営者や管理者、職員は身体拘束の内容や弊害を理解しており、拘束を行わないケアに取り組んでいる。しかし、やむを得ず拘束を行わなければならない場合の体制が整えられていない。	○	やむを得ず拘束を行わなければならない場合に備え、家族に説明して同意を得るなどの体制を整備することに期待したい。
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は居室や玄関を施錠しておらず、自由に出入りすることができる。外出傾向を察知できるよう見守りを行っており、察知した時は職員が付き添うなどの支援を行っている。また、無断外出時に備えて、近隣住民との連携を図っている。		
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策が定められており、2ヶ月に1回、夜間を想定した避難訓練を行っている。また、年2回、消防署の協力を得て訓練を行っている。しかし、災害発生時に備えた食料や飲料水等の備蓄品は用意されていない。	○	災害発生時に備えて、数日分の食料や飲料水、寒さしのぐ毛布等を用意してはどうか。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を把握し、記録している。一日およそ1,600キロカロリーを目安にし、栄養バランスに配慮した献立を管理者が作成しているが、栄養士等の専門家から助言をもらえる体制にはなっていない。	○	保健所や医療機関の協力を得るなど、栄養士等の専門家から定期的に献立に関するアドバイスを受けられる体制を整備することに期待したい。
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルが作成されている。しかし、定期的に学習会を行ったり、家族に感染症に関する情報提供を行うなどの取り組みは行われていない。	○	内部・外部研修を通して感染症に関する理解を深めていくことに期待したい。また、ホーム便り等を通じて、家族にも感染症に関する情報を提供してはどうか。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
34	78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースには、小上がりや大きな時計、観葉植物等が設置されており、家庭的な雰囲気となっている。また、テレビ等の音量や室内の明るさは適当で、快適な空間である。		
35	80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはこたつやテレビ、タンス等の馴染みの物が持ち込まれており、一人ひとりが居心地良く過ごせる環境となっている。		

※ は、重点項目。